

0100 駒形こどもの杜

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 こども施設 住宅
〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 〔補助金〕 内閣府 国土交通省 厚生労働省
〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
〔対象者〕 高齢者 障がい者 こども ファミリー 多世代



写真1. 保育教室内観

駒形こどもの杜は0歳児から5歳児までを対象とした、幼保連携型認定こども園である。隣接している駒形神社や園庭、室内の多くのコーナーを活用した幅広く選択肢のある活動、のびのびした園生活を援助している。また3, 4, 5歳児は異年齢保育を導入しており、人との関わり合い、社会性や協調性、思いやる気持ちなど生きる力を育んでいる。

見学日：2017年8月16日（山田あすか，金子亜里砂，高瀬敦，古賀誉章，土田寛），2018年8月23日（ゼミ合宿にて）

■施設概要

教育方針：「人間の正しい生き方を導く」
＝「私は私，でも私はみんなの中の私」

建設種別：幼保連携型認定こども園

所在地：岩手県奥州市水沢区中上野町 1-83

運営主体：社会福祉法人 駒形会

設立年月：昭和 25 年 3 月 6 日

設計者：株式会社 菊地啓吾設計企画

敷地面積：2750.12㎡

延床面積：1359.32㎡

構造：木造合金メッキ鋼板ぶき平屋建

定員：245名〔0歳児：30名，1歳児：35名，2歳児：45名，3歳児：45名，4歳児：50名，5歳児：45名〕

開園時間：午前7時～午後7時

嘱託医：内科医，歯科医，薬剤師

■運営について

・利用者数：229名（2019.3.28現在）



写真2. 周辺状況（出典：国土地理院*）2016.08.06
東北本線「水沢駅」より徒歩15分程度の場所に位置する。駅から住宅街を通り、自然豊かな水沢公園の中に位置する幼保連携型認定こども園。



写真3. 外観写真（千葉建設株式会社 ホームページから引用）

古くからの日本家屋をイメージし、周りの緑に建物がなじむよう色合いが工夫されている。

参考文献

- 1) 社会福祉法人 駒形会 幼保連携型認定こども園 駒形こどもの杜 < <https://komagata.oshushi.com/kihon.php> > 2020.05.03 参照
 - 2) 千葉建設株式会社 法人向け建築サイト < https://biz.chibakensetsu.com/co_photo/8fbf6a3ed47510a0d1f68e96daf61f9b-63.html > 2020.05.03 参照
- * 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス < <https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1> >



写真4. 園庭

緑に囲まれた園庭と、その中にある木で作られた遊具。



写真5. 渡り廊下

2棟を雨にぬれず移動することができる。

〔0歳児：31名，1・2歳児：76名，3歳児：39名，4・5歳児：83名〕

・職員数：64名（2019.3.28現在）

〔園長：1名，副園長：1名，事務長：1名，主幹保育教諭：1名，保育士：37名，栄養士：2名，調理員：7名，看護師：3名，事務員：3名，その他：5名，嘱託医：3名〕

・クラスわけについて

0歳児から2歳児は年齢ごとに2クラスに分かれている。3歳児から5歳児では異年齢児保育を導入しており、全体を3クラスに分けている。

■特別保育事業

・延長保育

登録申請することで午後7時までの延長保育が可能。

・学童保育

当園の卒園児に限り小学生1年生から原則3年生までの児童の保育を行う。

・一時あずかり事業

通院，看護，冠婚葬祭など，急に必要になった時の保育サービスなどを行っている。

・子育て支援センター

育児相談，子育て広場，お昼ごはんの体験。

・病児・病後児保育

保育中に体調不良となった子どもを保護者が来るまでの間，緊急的に看護師が対応する。

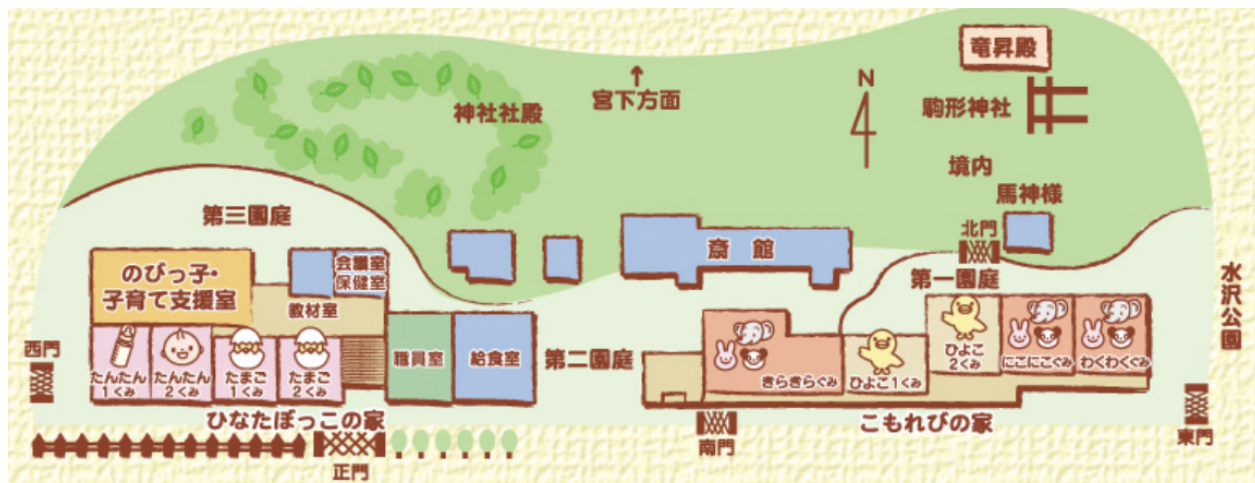


図1. 園舎の見取り図（社会福祉法人 駒形会 幼保連携型認定こども園 駒形こどもの杜 参照）



写真6. 保育室内観

■建物について

・園舎が作られた経緯

もともとの園舎は、駒形神社の斎館を借りて、戦後間もないころに私立保育園として創られた（昭和25年、戦後の保育所保育指針策定時の最初期事例）。その後、多様な保育ニーズに対応するため、幼保連携型としてこども園に認可された。

・当施設を作るときのコンセプト

人数は多いけれど、大雑把に保育しているのではなく昔ながらの日本家屋をイメージしていた。それゆえ、園舎の屋根や外壁の色は周りの風景に馴染むような色を選んでる。

・荷物棚について

当こども園では一人一つ荷物棚をもらえる。荷物の管理の経験は自立と自律のために必要であり、就学に向けた訓練にもなる。

・設計の際、あまり時間をかけられなかったため使いづらいところは多くあったが、日々手を加えて使いやすく直し続けている。



写真7. 廊下

木の建具がリズムを与えている。溜まりになるホールはもとは小さな光庭だったが、動線と活動場所の兼ね合いで改修して屋内にした。



写真8. トイレ

ドライトイレ。こども目線でシンプルだが怖くない、生活の延長のデザイン。

■空間構成について

・給食室について

設計の段階で、こどもが給食を作っているところを見られるようにした（低い位置にガラスの小窓がついている）。食への興味関心や、食事を用意してくれる人への感謝の心を育て、また大人の仕事を覗く「好奇心」を刺激する効果もある。

・コーナーについて

室内は「遊びの空間」、「食事の空間」、「着替えの空間」、「排泄の空間」、「眠りの空間」に大別されている。またそれぞれの空間は独立している。広々とした保育室には各コーナーの作り込み（場所を設定すること、それぞれに緩やかな性格をあたえること、作り込みすぎないこと）が丁寧に行われており、こどもたちがそれぞれの遊びを見つけ、遊び込むことができる。随所に、隣接する公園や神社等で拾ってきた枝などが天井からつるされて飾られ、こどもの低い視点から見ると、外部空間との連続性が保育室内に取り込まれている。

・改善すべき点

異年齢児クラスの中に2歳児のクラスを入れ、異年齢児の雰囲気を感じさせようとしたが、低年齢児が上級生に圧倒されてしまうと感じている。異年齢児棟と管理乳児棟をしっかり分けるべきだった。

三枚戸が多いが、子どもが指を挟む危険性がある。後からの配慮で、事故が起こらないように気をつけている。

（作成者：東京電機大学 峯健人，2020.11

加筆・校正 東京電機大学 山田あすか 2020.12）



写真9. 着替えコーナー

持ち物の棚で囲って、着替えコーナーをつくっている、持ち物棚を作り付けにしないことがコーナーづくりの第一歩。



写真10. 遊びのコーナー

畳を敷いて、ローテーブル遊びのコーナー。窓の柵が、上に登れないようなデザインであり、常時の「監視」が不要となることから、活動の自由度を高める。



写真11. 睡眠スペース

乳児のほふく室。天井にオーニングがかかり、空間に柔らかさやあたたかさ、こちよい狭さ感が与えられ、安心感がある。



写真12. 食事スペース

木製の机とテーブル。机遊びの場ともなる。天井から下げられたグリッドと木の枝の飾りで、天井を低く感じさせる。



写真13. 動線空間に設けられた絵本コーナー

立っていると外への視線が通るが、畳に座ると視点が下がって、外の風景が見えない、集中できる場となる。



写真14. 低年齢児の遊びのコーナー

低年齢児の部屋の1隅は、廊下が見えるように、下部がガラスの格子戸になっている。飾り棚の下部は座れる設えである。そこも家具でできられて遊びのコーナーとして使われており、このときは段ボールに描かれた線路が敷かれていた。



写真 15. 低年齢児室のパントリー

家庭的な設えで、こどもたちの家のように感じられるつくり。



写真 16. 低年齢児室の受け渡し玄関ホール

感染等の対策のため、保育室内に入らなくてもこどもの受け渡しと物品管理ができるよう、両側から取れる荷物入れ。



写真 17. ホール：学童保育

奥のホールは長期休暇の間は学童保育として使われている。



写真 18. 会議室／研修室

会議や研修に使われる、落ち着いた和室。園庭の様子を見ることができる。



写真 19. こどもたちと一緒に作った「小屋」と切り株

園舎に隣接する園庭の一角。長細いかたちの敷地に、リニアに園舎が並んでおり、園庭もリニアにそれぞれの場所が展開する。



写真 20. アスレチックのある園庭

神社の裏手にあたる林のなかに、アスレチックのサーキットのように遊具がちりばめられている。